

日本共産党 伊勢崎市議団ニュース



編集・発行／日本共産党伊勢崎市議団
伊勢崎市北千木町 2087 25-4854

塩漬け土地で大きな損失

説明責任を果たせ!

5月30日から6月24日まで定例市議会が開かれ、共産党議員団は北島議員が市有地について「なご一般質問を行いました。」

水道庁舎用地売却 13億円の損失でも市民に説明なし

「ムダな投資」との反対を押し切って購入した、水道庁舎用地は、清明高校グラウンドとして正式に売却が決まりました。

広報では13億円の売却損にはまったくふれず「土地を売却して経費の削減を行います」とだけ。過去の市長の責任とはいえ、同様の誤りをくり返さないためにも、市民への説明責任を果たすよう強く求めました。

他にも各地に塩漬け土地

活性化用地が活性化を阻害

境町駅前に市街地活性化のために先行取得した空き地は、平成16年に固定資産税評価額の7割、1億7千万円で購入したのですが、今や固定資産税評価額で1億9百万円にまで下がっています。

民間に売りたいと言っています。が、引き合いはなく塩漬け状態で放置され、市街地の衰退に拍車を掛けています。

また女塚区画整理は地権者の賛同者が得られず、事業化にいたりませんでした。このため2億3千万円で購入した6000㎡の先行取得用地が塩漬けに。点在し活用方法が見つからないうちに、固定資産税評価額では半分以下に。

市長が理事長、職員が

理事の土地開発公社

公共用地を先行取得するため、土地開発公社がつくられています。市長が理事長で、職員が理事とチェック機能がないうえ、土地購入には議会の議決は不要です。

平成22年に19㎡の土地を、一千百万円で買い戻しています。土地の下落による損失一千万円を、先に売却した分もまとめて上乘せしたので、この単価になったと言うことです。

地価の下落でどこまで損失がふくらむか判らず、利子・事務費も付けて市が買い戻さなければなりません。赤字を垂れ流し、チェック機能のない公社は解散すべきと要求しました。

各地にある塩漬けの市有地、活用の検討が必要ですが、時代が変わったと言うだけで購入時の問題点や責任の解明もなく、損失は内緒で穴埋めする、こんなお役所仕事は辞めてもらいましょう。

そのほか一般質問事項

■指定管理者が代行する施設管理で、サービス低下のないよう求めました。

■通学路の安全対策の取り組みについて聞きました。

■桐生市の清掃センター

ターでの震災がれ

き焼却について、

周辺の赤堀地区住

民の不安に対応す

るよう要望しまし

た。



水道庁舎用地売却までの経過

- ◆1995年(平成7) 3千㎡を15億7400万円で購入
- ◆2005年(平成17) うち21997㎡(11億5465万円)を高校グラウンドとして無償貸与
- ◆2014年(平成24) グラウンド用地を5億8千万円で県教育委員会へ売却

購入額	11億5465万円
+借入金利子	7億1391万円
-売却額	5億8000万円
損失計	12億8856万円